

## キャベツ害虫の防除体系

(園試 環境部)

### 1. 背景とねらい

平成に入ると、コナガに卓効を示した合成ピレスロイド剤の著しい効力低下が認められ、防除上問題となった。このため、平成2年度に「コナガを中心としたキャベツ害虫に対する各種殺虫剤の防除効果」を参考に供した。今回これを基本として、キャベツ害虫に対する殺虫剤散布回数の低減を目的に、主要害虫の発生状況に応じた効率的な防除体系を作型別に確立したので指導上の参考に供する。

### 2. 技術内容

- 1) 4月下旬～5月上旬定植の春まき栽培では、表1に示した防除体系のうちから一つ選んで防除する。
- 2) 7月下旬定植の夏まき栽培では、表2に示した防除体系のうちから一つ選んで防除する。

### 3. 指導上の留意事項

- 1) 表1、2に示した主要害虫の発生状況は園試平年で示した。害虫の発生時期や発生量は年次や地域により変動するので、発生予察情報を参考にするとともに、定期的に発生状況を調査する。
- 2) 抵抗性コナガの発現回避のため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を基本とする。
- 3) 春まき栽培では、性フェロモントラップを利用してコナガ防除開始時期を予測できる。

### 4. 試験成績概要 省略

表1 春まき栽培（4月下旬～5月上旬定植）の防除体系

回数	防除時期	対象害虫	防除体系			主要害虫の発生状況
			1	2	3	
1	6月上旬	ヨトウガ、アオムシ	A	B	D	ヨトウガ第1世代孵化盛期 コナガの発生始まる
2	6月中旬	コナガ	F	F	F	コナガ急増期
3	6月下旬	コナガ、アオムシ アブラムシ類	G+E	A+E	A+E	アオムシ第2世代孵化始まる アブラムシ類の発生多くなる

表2 夏まき栽培（7月下旬）の防除体系

回数	防除時期	対象害虫	防除体系			主要害虫の発生状況
			1	2	3	
1	7月下旬 (定植時)	コナガ、アオムシ アブラムシ	粒剤	粒剤	粒剤	コナガ発生盛期、アオムシ第3世代孵化盛期 定植時に株当たり2gを植穴施用する
2	8月中旬	コナガ、ヨトウガ	F	F	D	ヨトウガ非夏眠蛹に由来する第2世代孵化盛期
3	8月下旬	コナガ、アオムシ アブラムシ、ウワバ	G+E	A+E	A+F	アオムシ第4世代孵化盛期
4	9月中旬	ヨトウガ、コナガ	A+C	B+C	G+E	県南部対象 ヨトウガ夏眠蛹に由来する第2世代孵化盛期
			C	C	E	その他地帯対象

使用薬剤の系統と薬剤名

		系 統	薬 剤 名
茎 葉 散 布 剤	A	有機燐剤	オルトラン水和剤、トクチオン乳剤
	B	カーバメイト剤	ラービン水和剤
	C	第3級アミン剤	バダン水溶剤、ルーバン水和剤、エビセクト水和剤
	D	バダン+有機燐剤	メラード水和剤
	E	BT剤	トアロー水和剤CT
	F	キチン合成阻害剤	アタブロン乳剤、ノーモルトEC乳剤
	G	合成ピレスロイド剤	県防除基準参照
		土壌施用剤	オルトラン粒剤、オンコル粒剤